



持続可能な 事業・貢献活動 報告書

Sustainable Development Report

2016

2017年4月

株式会社 山田組



目次

1. 巻頭挨拶	なんの言い訳にもなりません	02
2. 特集1	地域防災大会の取り組み ～地域の自助・共助向上をめざして～	03
3. 特集2	環境出前講座の実践	05
4.	「東谷山・天空のアグリパーク」と「農業文化園・戸田川緑地」 2つのフィールドを活用した活動	09
5.	さまざまな防災活動	11
6.	LIXILリフォームショップ山田組の紹介	13
7.	なごや環境大学の活動	14
8.	業界に対する主な貢献活動	15
9.	そのほかの貢献活動	16
10. おわりに	さまざまな貢献活動を会社のエンジンにして	18

なんの言い訳にもなりません



株式会社山田組 代表取締役
山田 厚志

今年のこの報告書の完成は遅れに遅れてしまいました。なんの言い訳にもなりません、遅れたその理由は「1年中、この報告書に載せる活動に追われ続けたから」にほかなりません。

この報告書に載せる活動とは全て当社にとっての必要欠くべからざることばかりです。日々の建設事業に環境配慮は欠かせませんし、本社や施工現場会社の活動を地域の皆さんに理解していただくために取り組む各種のCSR活動も本業をより強固なものにするための大切な取り組みで、一つとして疎かにはできないものばかりです。

そしてなにより、こうした取り組みを当社の顧客(国・県・自治体・ガス会社など)に評価していただき競争力を強化し、会社の持続可能性を高めることこそ代表者である私に課せられた使命ですから、自ずと活動には力が入ります。

社員たちもまた頑張りました。それぞれが担当する業務と合わせて「日本一、社会・環境貢献活動に取り組む建設会社」をめざす当社の活動に懸命に従事しました。

拙いながらこの報告書には社員や私のこの一年間の活動の一端が載せられています。ご覧いただければ幸いです。

▶ 昨年の第12回大会の様子をご紹介します

平成28年10月22日(土)に開催した「第12回供米田中学校区地域防災大会」では、区の要請で地元歯科医師会とも協働して「自分と家族と地域を守る防災大会」をテーマにして内容を煮詰めました。その成果は別途、当社のホームページ上の「地域防災大会活動報告書」最新版でご覧いただければ幸いです。

第12回大会の催事案内チラシと様子



上下水道局による訓練



中川区医師会災害訓練



炊き出し試食体験



特別講義
「熊本大地震の被害状況と当地区への教訓」



被災地活動報告

▶ これからも地域の防災・減災の担い手として貢献していきます

社会ではよく「自助・共助・公助」と言いますが、「公助」と呼ばれるものを「行政の助け」と考えることは大きな誤りであると当社は考えています。

平常時の公共建築物・構造物の耐震化促進や避難所の増設・整備、発災後の水道・ガスなど都市パイプラインの復旧確保や救援物資・けが人搬送のための道路啓開作業等々、いわゆる「公助」と呼ばれる取り組みは資金と陣容に限りがあります。自助と共助で対応できない他の全てを「公助」で補えると考えることは幻想です。これら「官助」と地域の力をより強くしたものとが一緒になって初めて「公助」と呼べるというのが当社の考え方です。

長年行ってきた地域防災大会の目的はそこにあります。名古屋南西部に位置する当社を含む供米田中学校区の「公助」の力量をより固めるために、当社はこれからも地域防災大会を続けていきます。

のものでは効果が期待できません。地域に根ざす中小企業として限られた経営資源を活用して如何に活動を継続していくか…当社では過去10年以上にわたって代表者自らが継続的に学校・児童館などに出前講座に出掛け、次世代の環境意識の向上と建設業が実践する環境活動への興味・関心を高める活動に取り組んでいます。

この活動はトップ自らが取り組むことで多額の経費が発生せず、社員にも過度な負担を掛けません。さらには発注者の企業評価に繋がり、自社のビジネスチャンスの拡大に寄与しています。ゆえに活動の継続性も担保されています。

▶主に環境パートナーシップ・CLUBの仕組みを活用しています

環境出前講座の取り組みは当社が創設メンバーの一員として所属する環境パートナーシップ・CLUBの「次世代交流分科会」の活動が主なベースとなっています。以下にその流れと平成28年度年間の講座実践一覧を掲載します。

5. 受講者の評価・反響 ・受講者アンケート回収 ・児童・生徒からの手紙

アンケート回収票のイメージ。氏名、年齢、性別、学年、講座名、感想、意見、連絡先などの欄が記載されている。

6. 実施振り返りと発信 ・実施報告の作成・記録 ・当社 HP での発信

EPOC環境教育実践報告書のイメージ。実施日時、実施場所、実施内容、実施結果、実施者などの欄が記載されている。



講座の継続的改善の資料として活用する
継続実施のモチベーション維持にも役立ってる

2016年度 環境出前講座実施一覧

No.	月日(曜) 時間帯	対象(申告人数)	内容(概要)
1	5/27(金) 13:10-14:50	名古屋市内中学校・3年(47名)	防災学習(ストローハウス)
2	6/9(木) 9:40-11:30	名古屋市立八社小・5~6年(184名)	防災学習(ストローハウス)
3	7/12(火) 13:45-15:20	東浦町立片葩小・4年(86名)	チャレンジ!面白エコ工作
4	7/27(水) 14:00-15:00	弥富市さくら児童館・1~6年(30名)	チャレンジ!面白エコ工作
5	7/28(木) 14:00-15:00	弥富市白鳥児童館・低学年中心(20名)	防災学習(ストローハウス)
6	8/2(火) 10:00-11:30	弥富市弥生児童館・1~6年(25名)	チャレンジ!面白エコ工作
7	8/3(水) 14:00-15:00	弥富市白鳥児童館・低学年中心(20名)	チャレンジ!面白エコ工作
8	8/4(木) 13:30-15:30	なごや環境大学共催講座(12名)	エコブリッジ工作
9	8/9(火) 14:00-15:30	尾張旭市中部児童館(30名)	チャレンジ!面白エコ工作
10	8/18(木) 11:00-12:00	碧南市棚尾児童クラブ・1~4年(40名)	
11	13:30-14:30	碧南市棚尾児童クラブ・1~4年(40名)	チャレンジ!面白エコ工作
12	8/29(月) 13:30-15:00	碧南市鷲塚児童クラブ・1~5年(100名)	防災学習(ストローハウス)
13	9/20(火) 9:40-12:25	名古屋市立庄内小5年生(110名)	環境にやさしい街づくり
14	10/17(月) 14:00-16:00	東浦町立緒川新田児童館・1~6年(60名)	チャレンジ!面白エコ工作
15	11/8(火) 9:40-11:20	弥富市立白鳥小4年(41名)	防災学習(ストローハウス)
16	12/15(木) 9:45-11:30	名古屋市立ほのか小・4年(73名)	チャレンジ!面白エコ工作
17	2017/1/6(金) 13:30-15:00	弥富市栄南児童館・1~3年(25名)	チャレンジ!面白エコ工作
18	2017/1/20(金) 10:30-11:45	名古屋市立津楽小学校4年(80名)	防災学習(ストローハウス)
19	2017/2/25(土) 10:00-11:30	弥富市大藤児童館・1~6年(20名)	防災学習(ストローハウス)
20	2017/3/7(火) 9:00-11:40	名古屋経済大学付属高蔵高1,2年(30名)	防災学習(ストローハウス)
21	2017/3/24(金) 14:00-16:00	東浦町立緒川新田児童館・1~6年(60名)	チャレンジ!面白エコ工作

▶ 講座のメニューは大きく4つです

当社の環境出前講座は1コマが「座学・ワークショップ・振り返り」の3つのパートで構成されています。特徴的なことは「聞くだけでなく手を使い仲間と協力して学ぶ参加型学習」である点です。

当社の環境出前講座実施の大きく4つのメニュー紹介

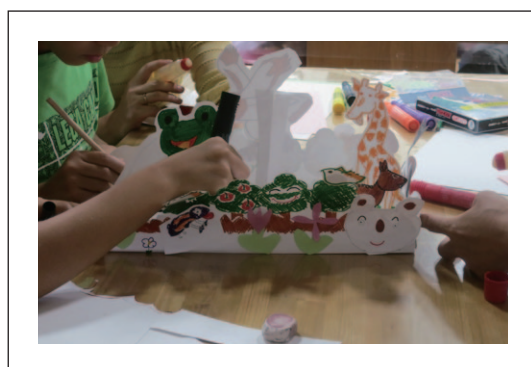
1. 先進地に学ぶ環境にやさしいまちづくり

- 地球環境問題と地域環境問題の関連性を学び、未来の街の主人公たち自らが「環境にやさしい街」を描き出すことを目的とした講座
- 欧州各地と国内の具体的な環境先進事例をスライドで観賞し、クイズも交えて授業を進める
- 最後にグループ討議を経て、発表会を開く



2. 動物たちの命をまもるエコブリッジづくり

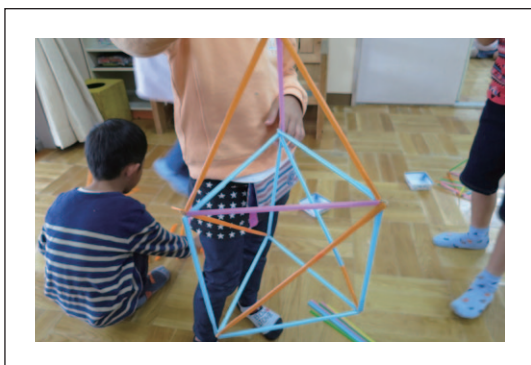
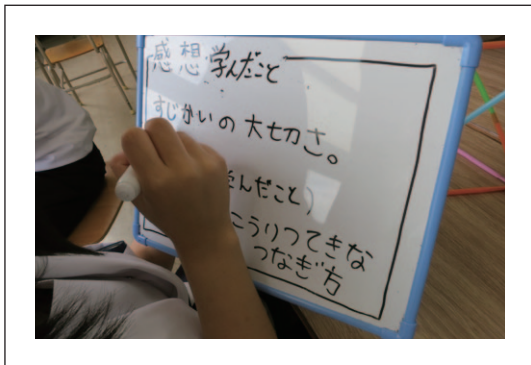
- 従来までの建設事業にはない「動物たちの命を守るエコブリッジ」を子どもたちが自ら作り、新しい建設業の世界を学ぶことを目的とした講座
- 紙で作ったエコブリッジが重さに耐えるかどうかを完成後に検証し、問題解決力を養う
- 家族やグループで協力して一つの作品を作る



小学校低学年から大人までを対象に誰もが楽しく参加できる出前講座を行なうよう心がけています。以下に当社の主な講座メニューをご紹介します。

3. 「すじかい」の威力を学ぶストローハウス工作

- ・地震等の揺れに対して斜め部材である「すじかい」が耐震性を発揮することをストローとゼムクリップを使って自作して学ぶことを目的とした講座
- ・名古屋大学減災連携研究センターの許諾を得た防災学習の教材に造形的要素を加えた
- ・自然災害も大きな環境破壊であることを学ぶ



4. 「もったいない」チャレンジ！面白エコ工作

- ・学校や児童館にある不用品と子どもたちが持ち寄る材料等を使って共同制作し、「リユース」の大切さを体感することを目的とした講座
- ・制作題材は子どもたちが熱中する「隠れ家」「巨大ゲーム」「モニュメント」などを毎回考案する
- ・学年や性別を超えて協力する意識も芽生える



山田組アグリ事業は「2016愛知環境賞優秀賞『持続可能な環境・農業・防災体験学習の実践』」受賞を励みとし、かかわってくださる皆様のお力を借りながら、農業・環境・防災の取り組みを行って参りました。その一部を紹介します。



東谷山・天空のアグリパーク

概要

名古屋市守山区にある山田組自社農園「東谷山・天空のアグリパーク」は、2012年10月名古屋市で初めて利用権設定(農地の賃貸契約)された農地です。都市農業活性化の一助となればと考えています。面積は約7500m²あります。

環境のとりくみ

なごや環境大学共育講座「夏の燻製作りとブルーベリー摘み取り体験」を2016年8月27日に行いました。人は微生物を利用し、味噌や醤油、お酒、チーズなどを作ります。農業では発酵肥料を活用しています。一方、段ボールでできる燻製作りを参加者全員と行い、燻煙が微生物を抑制することを紹介しました。つまり微生物をコントロールできることが大事であることを紹介しました。またブルーベリーの2品種以上をそばに植えるのは、ミツバチが受粉してくれなければ実がならないからで、つまりミツバチが生きる環境を守るとは、私が生きる環境を守ることであることを、参加者も一緒に考えました。

防災のとりくみ

当園は名古屋市の「防災協力農地」となりました。防災協力農地とは、地震災害が発生した場合に、市民の避難空間としての活用と、災害復旧用資材置場を確保することを目的とした名古屋市の制度です。

当園は万一の場合、一時的に避難する場として、あるいは防災キャンプができるような用地としても利用できるよう、今後災害用トイレ等少しずつその備えをしていく予定です。

農業のとりくみ

ブルーベリーや梅など果樹を中心とした生産販売を行っています。「梅摘み取りと梅シロップ作り体験」は定番イベントとなり、リピーターも多くきてくれるようになりました。「ブルーベリー摘み取り体験」は完全予約制で、日程も決まっていますが、毎回定員を超えるほどです。

ブルーベリーは新鮮なほどおいしい果物であるため、地産地消、消費者に近い都市内農業でこそ喜ばれる農産物です。また有機JAS規定に則って(未認定)、化学農薬化学肥料不使用で栽培しているのは、それを望む消費者の存在があり、またその安全安心な農産物を生産する大変さを体感していただく場とも捉えているからです。

収穫体験だけでなく、梅やブルーベリー、柿の剪定、土づくり、ブルーベリーの鉢替えなど農園の管理に関わるあらゆる農作業体験の機会をできるだけ設け、多くの方にご来園いただきました。また、名古屋市の仲介で「なごやか農楽会」(守山支部会員約35名)の援農ボランティアの方々に農作業を手伝っていただけるようになりました。その他にも中学校の体験学習や障害者就業体験などで多くの方にご来園いただきました。



農業文化園・戸田川緑地

概要

名古屋市南西部にある名古屋市の公園です。市民の憩いの場であるとともに、農業公園として農業や環境への理解を深めて頂く役割と、立地を活かした健康とスポーツの里としての役割を担うよう整備されています。面積は約29haあります。

環境のとりくみ

戸田川緑地の「西の森」や「生態園」は生き物観察や環境教育の場として活用されています。外来の植物や生き物が多くなってきた生態園は、現状を本来の役割を果たせるよう最適化するための検討が「ビオトープ・ネットワーク中部」の方々や大学などと進められています。また外来種であるメリケントキンソウ・オオキンケイギク等の駆除やヨシの活用を、当園利用者とともに進めるよう計画を検討しています。

防災のとりくみ

名古屋市地域防災計画の中で広域避難場所に指定されており、防災イベントを行うにも最適な公園です。

なごや防災ボラネットや認定NPO法人レスキューストックヤード、名古屋建設業協会他のご協力のもと行った「子ども防災デイキャンプ」や「連続講座子ども防災教室」は防災について共に学ぶ機会となりました。職員とボランティアが行う「炊き出し訓練」も始まりました。山田組が当園にかかわるようになって、それまでになかった防災に力を入れるようになり、意識も高まってきました。

農業のとりくみ

当園には体験水田や農園があります。親子講座「田んぼの楽校」や初級・中級者向け野菜作り講習会、5月とだがわまつりのタマネギ収穫体験や10月秋まつりのサツマイモ収穫体験、近隣小学校の田んぼ体験やダイコン、ジャガイモの種まきや収穫、中学校の職場体験、小学校の社会科見学など様々な方を対象とした農業体験・食育学習を行っています。農業は農家のものだけでなく、就農したい方や家庭菜園したい方が学ぶ場として、あるいは食育・食農教育学習できる場として子供も大人も学べるよう、様々なニーズに応えています。

基本方針である「農とみどりの楽援づくり」を実現すべく、職員とボランティアが公園を共に支える仕組みとして、2016年4月にボランティア団体「とだがわサポーターズ(愛称とだサポ)」を立ち上げました。農作業等を一緒に行い、それぞれがやりたいことを実現できる公園となるよう、開かれた公園を目指しています。



東谷山・天空のアグリパーク

名古屋市守山区
上志段味東谷2110-20

※最新情報はブログ

「天空のアグリパークだより」

<http://berry-good.sblo.jp/>



農業文化園・戸田川緑地

名古屋市港区
春田野2丁目3204

※最新情報はホームページ

<http://bunkaen-todagawa.jp/>



(株)山田組アグリ事業は今後も積極的に社会・環境貢献活動に取り組んでいきます。ご期待ください。

(頁担当:都市農業部門 平田朱美)

さまざまな防災活動

▶防災活動の概要

株式会社山田組・株式会社ナックプランニングでは、将来懸念される南海トラフ南海巨大地震に備えて、供米田・豊治学区で防災訓練を12年連続で行ってきました。

当社のそのような取り組みが評価され、企業や大学、行政から「防災・減災」に関する業務の受注が増えています。

CSRの貢献活動がビジネスにつながり、ビジネスで得た新たな知識と人脈をCSR活動に生かすという、理想的な形の循環が生まれています。ここでは、ナックプランニングの活動の一端を紹介します。

▶中日新聞社との関わり

2013年3月、中日新聞社と販売店が連携し、地域防災を支援する「地域を守りたい～中日新聞防災プロジェクト」がスタート。これ以後、中日新聞社主催の「防災・減災チャレンジ！家族会議」「備える3.11からライブ」などの防災・減災関連イベントの企画・運営に関わらせていただいています。

中でも、2015年から毎年開催されている「備える！中日サバイバルキャンプ」(2015年の名称はレッドベア中日サバイバルキャンプ)は、親子を対象とした1泊2日の体験型イベントであり、様々な防災のプログラムを実施する上で、これまでの地域防災大会で得た知識や人脈を役立てています。また、ナックプランニングの強みを生かし防災・減災をデザインの力で、楽しく、分かりやすく展開し、広く一般への浸透を目指しています。

「備える！中日サバイバルキャンプ」(みずとびあ庄内)の様子



炊き出し



紙食器づくり



水消火器まあとあてゲーム



灯明づくり



要介助者救助



段ボールシェルター (就寝時)

写真提供：中日新聞社

行政との関わり（各種パンフレット・展示物の企画・制作）

ナックプランニングでは、行政からの防災・減災を啓発するパンフレットや展示物の制作に関わらせていただいています。

愛知県



小学生向け防災啓発用パンフレット「ほーサイ（防災）カレンダー」



中学生向け防災啓発用パンフレット「防災ナマズの防災カレンダー」



岡崎市



防災・減災啓発展示物制作（岡崎市役所 防災コーナー）



防災展示コーナー 壁面改修（岡崎市役所 防災コーナー）

碧南市



小学生向け防災啓発用パンフレット「BOU-SAI GEN-SAI BOOK」



碧南市地震対策減災計画パンフレット

LIXIL リフォームショップ山田組の紹介

▶「あいち“志金”マルシェ化計画」の参加

LIXILリフォームショップ 山田組は、LIXILが運営するリフォームフランチャイズチェーンに加盟するリフォームショップであり、LIXIL製品をを使った戸建住宅のリフォーム専門店です。

当店では2017年4月1日より「あいち“志金”マルシェ化計画」の寄付付き商品の販売に参加いたしました。

まち【ホームタウン】のつながりを再構築【リフォーム】という名称の寄付付き商品であり、LIXILの水回り商材をつかったリフォーム工事(トイレ・洗面・流し台・風呂)売上金額0.2%を「あいち・なごや子どもとつくる基金」に寄付することとなります。

「あいち・なごや子どもとつくる基金」とは、愛知県の未来を担う子どもの悩みや不安を解消し、ひとりでも多くの子どもの笑顔の花を咲かせるために、みんなで寄付を集める(“志金”を持ち寄る)しくみとして設置されました。

今回の寄付金は、あいちの子どもを取り巻く深刻な問題の解決のために生かされます。

以前より地元のお祭りでお店を出したり、小学校への出前授業の実施、お店は子ども110番などの困ったときの駆け込み場所として提供するなど、顔の見える関係を大切にしたいいろいろな活動を行ってきましたが、地域密着とまちの交流をさらに強くしたいと考え、寄付付き商品の企画に賛同し、販売するに至りました。



「あいち“志金”マルシェ化計画」についての詳細は、あいちコミュニティ財団ウェブサイトにてご覧下さい。

[URL] <http://aichi-community.jp/goods>



(頁担当：LIXIL リフォームショップ 山田組 井上聖一朗)

なごや環境大学「共育講座」の企画・運営

「学び合い・育ち合う、食・農・自然・防災の欲張り講座(全4講座)」
を12年目の今年も開講しました。

▶6月11日 第一回講座

「防災・減災の知恵を学ぶ講座」～豊田市の防災学習施設を見に行きましょう!～

講師: なごや中川災害ボランティアネットワーク

講座概要: 豊田市防災学習センターで防災・減災について学ぶ講座。



▶8月27日 第二回講座

「食・農を学ぶ講座」～山田組の農園で収穫体験を楽しみましょう～

講師: 山田組社員

講座概要: 東谷山フルーツパークに隣接する天空のアグリパークでブルーベリーの収穫体験と簡単燻製作り体験の講座



▶10月1日 第三回講座

「自然を学ぶ講座」～農業文化園・戸田川緑地 都市の中の自然を満喫しよう～

講師: 戸田川みどりの夢くらぶの皆さん

講座概要: 弊社が指定管理者として関わる戸田川緑地の自然を学ぶ講座



ご参加いただいたみなさま、どうもありがとうございました。
来年も趣向を凝らして開講の予定です。

(頁担当: 山田組管理部 部長 毛利尚弘)

業界に対する主な貢献活動

当社が所属する建設業協会の社会・環境貢献活動のサポートや行政の要請を受けて協力した活動の一端をご紹介します。

▶(一社)愛知県建設業協会の取り組み支援事例

当社代表が副会長を務める愛知県建設業協会が実施する社会への発信活動のうち、特に「ラジオ番組を使った広報活動」と「環境シンポジウムの開催」について継続して支援しています。



ラヴなご放送の様子



環境シンポジウムの様子

▶(一社)名古屋建設業協会の取り組み支援事例

名古屋の建設業者が組織する名古屋建設業協会では当社と同様に「なごや環境大学共育講座」を2005年以来、連続開講中です。当社はその企画・運営を支援しています。

また協会では区単位の有志会員による地域貢献グループも組織しており、当社の所属する「港・中川・中村地域サポート会議」の各種活動の企画・運営にも積極的に協力しています。



共育講座の様子



地域サポート会議の様子



環境ゲーなごの様子



共育講座の様子

▶行政の要請を受けて取り組んだ活動事例

「建設業の若手担い手育成」を掲げる行政からの要請を受けて、工業高校生徒・教員に「体験型建設業紹介イベント」の企画・運営に携わりました。



第1回合同体験フェアの様子



第1回合同体験フェアの様子

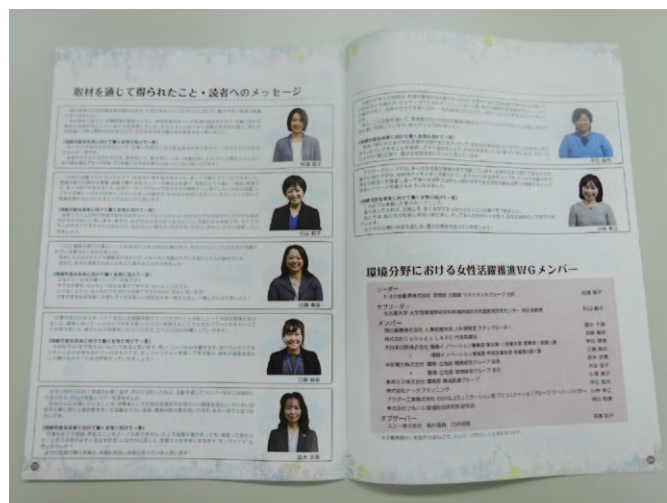
(頁担当：山田組管理部 部長 毛利尚弘)

そのほかの貢献活動

名古屋商工会議所 環境分野における女性活躍推進ワーキンググループ

当社ナックプランニングの平石が、名古屋商工会議所主催の「環境分野における女性活躍推進ワーキンググループ」の一員として各種の勉強会や視察に参加、環境分野で働く女性の活躍推進について検討を重ねています。

そのワーキンググループの成果として2016年12月に「今、知っておきたい 環境×女性×仕事～持続可能な未来に向けて、イキイキと活躍する女性～」のパンフレットと動画を制作し、2017年2月に、関連のシンポジウムを開催しました。(企画・運営を担当)



シンポジウムの告知チラシ、パンフレット「今、知っておきたい 環境 × 女性 × 仕事～持続可能な未来に向けて、イキイキと活躍する女性～」のパンフレット



「持続可能な未来に向けて、イキイキと活躍する女性 環境 × 女性 × 仕事シンポジウム」の様子

▶なごや環境大学 環境デーなごや「ワカモノビレッジ」の企画・運営

当社ナックプランニングの平石が、なごや環境大学の「広報チーム」にチーム員として所属し、各種の環境活動の企画や運営を行っています。

特に、毎年9月に行われる環境イベントの「環境デーなごや」では、大学生ボランティアとともに、「ワカモノビレッジ」という名称で、ブース出展や参加者と人をつなぐ各種の企画・運営を行っています。(※2017年度からは、ユースチームに所属)



「環境デーなごや2016」の「ワカモノビレッジ」の様子

さまざまな貢献活動を会社推進のエンジンにして

この報告書で紹介した各種貢献活動は当社の取り組みの一端に過ぎません。これらのほかにも地域防犯活動や多文化共生に協賛する活動、なごや環境大学の運営への参画やNPO諸団体の活動支援など、建設業界の枠を超える各方面との交流・連携は当社のかげがえのない財産です。

企業は本業を通して社会に貢献します。しかし本業にのみ求心力を発揮すれば社員の意識は内向きになり、立地する地域社会とも疎遠になってしまいます。常に社会と複数の接点を持ち、健全な貢献意識を発揮しながら企業活動を継続することが真のあるべき姿だと当社は考えます。

「貢献活動にはコストと手間がかかる」という指摘も、特に同業他社の皆さんからよく聞きます。そのコストと手間が企業活動とは無縁の「垂れ流しの活動」であれば、確かにその通りです。しかし、そのコストと手間が将来、何倍にもなって還元されるとしたら、さまざまな貢献活動はいわば「健全な営業コスト・営業活動」と言えるではないでしょうか？ そう考える当社は各発注機関に「より良く奉仕する者からより多く調達する社会責任調達手法」の検討を申し入れています。まだまだその実現の道半ばですが、たとえ今は貢献活動が大きく企業の利益を押し上げるものではなくとも、少なくともコストと手間以上の「便益」を生おとしたら本業のお荷物どころか企業活動を活性化させるエンジンの役割を果たすと当社は考えています。従ってこれからも多彩な貢献活動に取り組みながら当社の主張を貫いていくつもりです。

拙い本報告書をご一読下さった皆さん、ありがとうございました。
当社の活動を今後とも温かく見守っていただければ幸いです。



YAMADAGUMI
SPIRITS



YAMADA

株式会社 山田組

本社

〒454-0962

愛知県名古屋市中川区戸田5丁目1213番地

TEL : (052)301-6121 FAX : (052)303-2715

ホームページ

<http://www.yamadagumi.jp/>

E-mail アドレス

kanribu@yamadagumi.jp